



おめでとう3年生 素晴らしい卒業式

2026.3.12

「今日の練習の目標は、この後の総練習で3年生のところが修正練習(やり直し)にならないようにしましょう!」。その日の朝、3年生の学年練習前に担任が全体に確認した言葉がコレでした。その後、3学年しかない単独練習にもかかわらず、終始ピリッと本番同様の空気感の中で最後の練習が行われました。練習を重ねるたびに、卒業生の返事がハッキリと聞こえるようになり、歩き方や礼の仕方など所作が上達するなど、生徒も先生も卒業式を大切にしていこうとする気持ちがひしひしと伝わってきました。

そうして迎えた総練習。3年生はもちろんのこと、在校生の取り組む姿勢も素晴らしかったです。初めて3年生と合わせての練習だったこともあり、1年生に若干の間違えはあったのですが、一生懸命に取り組んだ結果の失敗は次につながるものです。もちろん、そのあとの練習でも誰ひとり間違えることなく、し

っかりとした所作にて、程よい緊張感を醸し出していました。

「当たり前のことを素晴らしく」をキャッチフレーズとして春から取り組んできた3年生。最後を締めくくる卒業式にて、在校生と共に、素晴らしい卒業式を創り上げました。証書授与の際の返事と担任へのアイコンタクト、在校生代表の〇〇〇絆さんによる送辞、卒業生代表の〇〇〇〇馬さんと〇〇〇丹さんの答辞は会場に潤いを与え、ラストは在校生と卒業生による合唱「旅立ちの日に」。退場の際には、卒業生との思い出が走馬灯のごとく廻ったのは私だけではなかったはずです。

式の終了後、ご臨席賜りましたご来賓の皆様から「良い式だったネ」「感動しましたヨ」とのコメントをいただきました。これは、単に涙あふれる式だったからだけではなく、子どもたちが姿で表わした式への思いと、先生方の思いが見事に交錯した結果へのご感想と受け止めました。ありがとうございました!

保護者の皆さん、お子さんの晴れの舞台はいかがでしたか?みんな立派に育ちましたね。皆さんの15年間の想いがあふれた涙も式を演出してくださいました。何かと忙しい時期でしたが、ご来校くださいまして、ありがとうございました。



答辞 〇〇〇〇馬
〇〇〇丹

送辞 〇〇〇絆

3月5日、公民館にて町表彰が行われ、〇〇〇〇さんが、夏に参加した少年の主張全道大会にて優秀賞を獲得したことから、標記の賞を受賞しました。

また、子どもかるた大会で管内優勝を果たし、全道大会3位に輝いた、〇〇〇帆さん、〇〇〇輝さん、〇〇〇糸さん（北龍の紫雲）が、奨励賞を受賞しました。

ちなみに受賞式の終わりには〇〇さんが受賞者謝辞を立派に述べていました。

受賞おめでとうー！
あっぱれ！羽中生！
「税をテーマとしたポスター」**入選**
「羽幌町青少年文化賞スポーツ賞」**文化奨励賞**
「羽幌町文化協会賞」**奨励賞**



梅原教諭 〇〇さん 本間副局長

2年生の美術科で取り組んだ〇〇絆さんの作品が、標記の賞を受賞し、本校の校長室にて表彰式が行われました。

式では、留萌振興局の本間副局長から、北海道知事の鈴木直道氏の名前による表彰状が送られました。



長い間お世話になりました！

給食センター

スクールランチ

よろしく
おねがいします！



ありがとうございました。

羽幌町の学校給食センターは昭和38年(1963年)に、ほぼ現在の場所に木造の平屋で開設され、平成5年(1993年)には、現在の給食センターに改築されました。残念ながら令和8年(2026年)3月に63年の歴史に幕を閉じます。開設当初はパン給食が主体でしたが、改築されてからは自校炊飯の給食が始まりました。地元のおいしいお米や、新鮮な野菜、地域ならではのお魚、丁寧に処理されたお肉、いろいろな食材を提供してくださり、支えていただいた地域の方々に感謝いたします。こどもたちが考えた、苦手克服「キノピオ」「キノッス」「ゴロチキ」のメニューも羽幌ならではの「みんなで作った羽幌の給食」でした。羽幌町市街地区学校給食センター調理員一同、最後の日まで真心を込めて作りますので、しっかり味わって食べて欲しいと願っています。ありがとうございました。

↑給食センターからのメッセージ（3月給食献立表より）

調理員として従事してくださる方の人員不足、施設や調理器具などの老朽化などにより、いずれは給食の提供が危ぶまれる状態でした。

町教委が、その対応策としたのが「スクールランチ」です。これは、業者が自社の施設にて調理したものを学校まで搬入し、給食として提供するというしくみです。私のような昭和世代には、なかなか馴染みのないシステムですが、管内では、すでに留萌市と初山別村で導入されています。担当する業者は有名な「コープさっぽろ」で、留萌市に設置された施設から届くことになっています。なお、児童生徒の給食費は全て無償化されるため、家計の負担が大きく軽減されるものと思われます。

これまでおいしくて安全な給食を提供してくだ

さっていた調理員の皆さん、そして、いつも栄養バランスが抜群で、しかも、テンション上がるメニューにしてくださっていた栄養教諭の本田先生（羽幌小勤務）には、本当に感謝しかありません。決して表には出ませんが、給食の提供に当たり、毎日、毎日、体調を整え、調理室の環境に気を配り、万全な体制で食中毒や異物混入を防止すべく、神経をすり減らしながら全力で調理に携わってくださっていた皆さんのご尽力あつての12:30からの時間でした。

羽幌の給食のおかげで、苦手なものが好きになった子、少なくとも一人、私は知っています。重ね重ねになりますが、本当にありがとうございました！



一年間、3年生の特別支援学級と有志の子たちが、毎月校長室前の掲示板を煌びやかに飾り付けてくれました。本紙の5月16日号から随時掲載しています。バックナンバーはHPにてご覧になれます。ぜひ！



3月の校長室前掲示板